

米子市の環境に関する市民アンケート調査結果(市民編)

第2次米子市環境基本計画の策定に当たり、環境に対する市民意識や家庭における再エネ・省エネの取組状況等の変化を把握することを目的に、令和元年度に実施したアンケートと同様(一部内容を追加または修正)の内容でアンケートを実施しました。

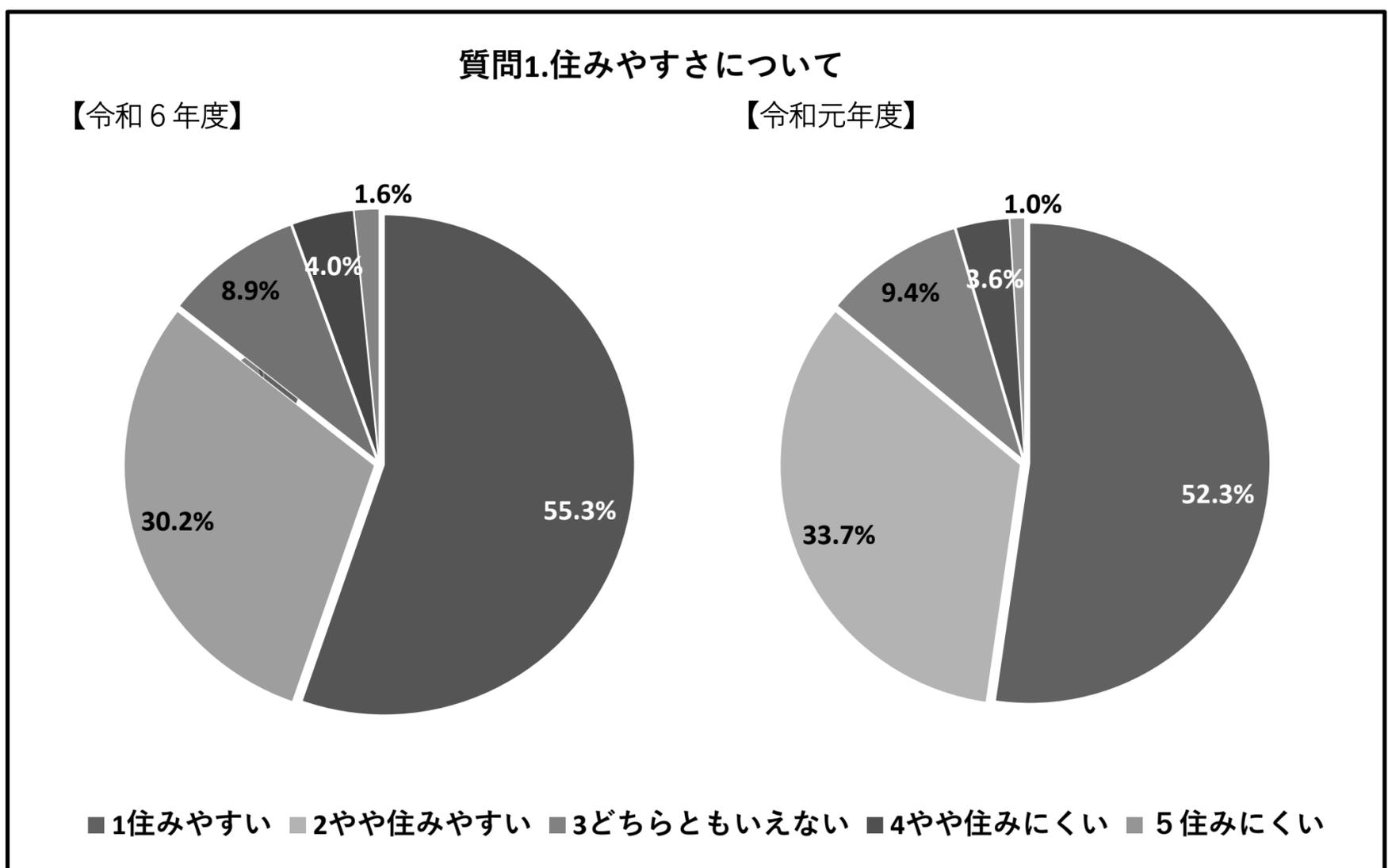
●調査概要●

調査期間	令和6年12月1日～12月20日
調査対象	米子市内居住の18歳以上の方から無作為に抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収及び電子申請による回答
配布数	3,000人
回収数(回収率)	1,076人(35.9%)

【身近な環境の様子について】

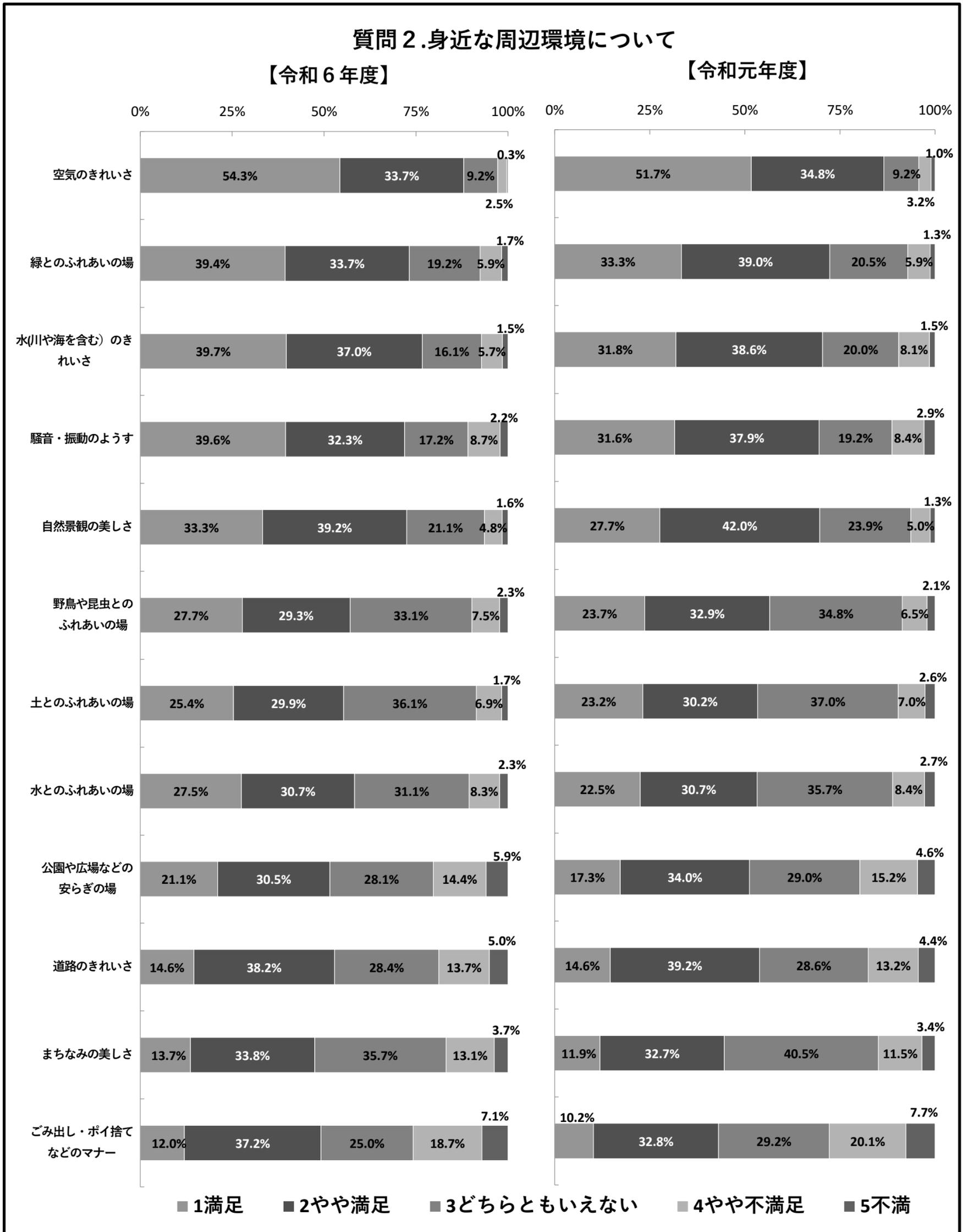
質問1. 住みやすさについて(有効回答数:1,005人)

数値の増減はあるものの、全体の傾向として令和元年度と同様の傾向でした。「住みやすい」または「やや住みやすい」の割合は合わせて85.5%で、多数が住みやすいと感じていると傾向は維持しています。



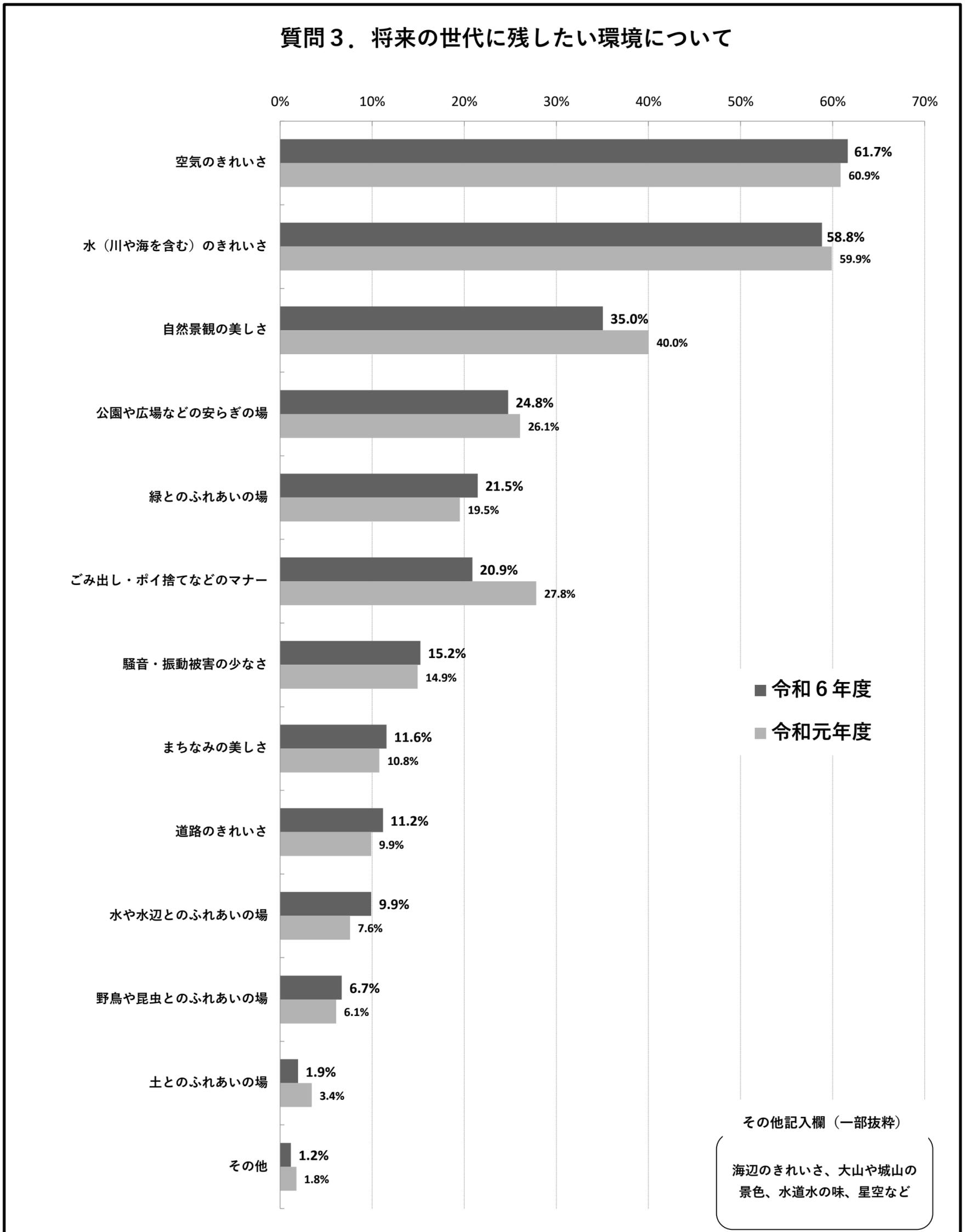
質問2. 身近な周辺環境について(複数回答あり)(有効回答数は本調査結果の末尾に表示)

多少数値の増減はあるものの、令和元年度と同様の傾向でした。「満足」、「やや満足」の割合を合わせると多くの項目で5割を超えました。



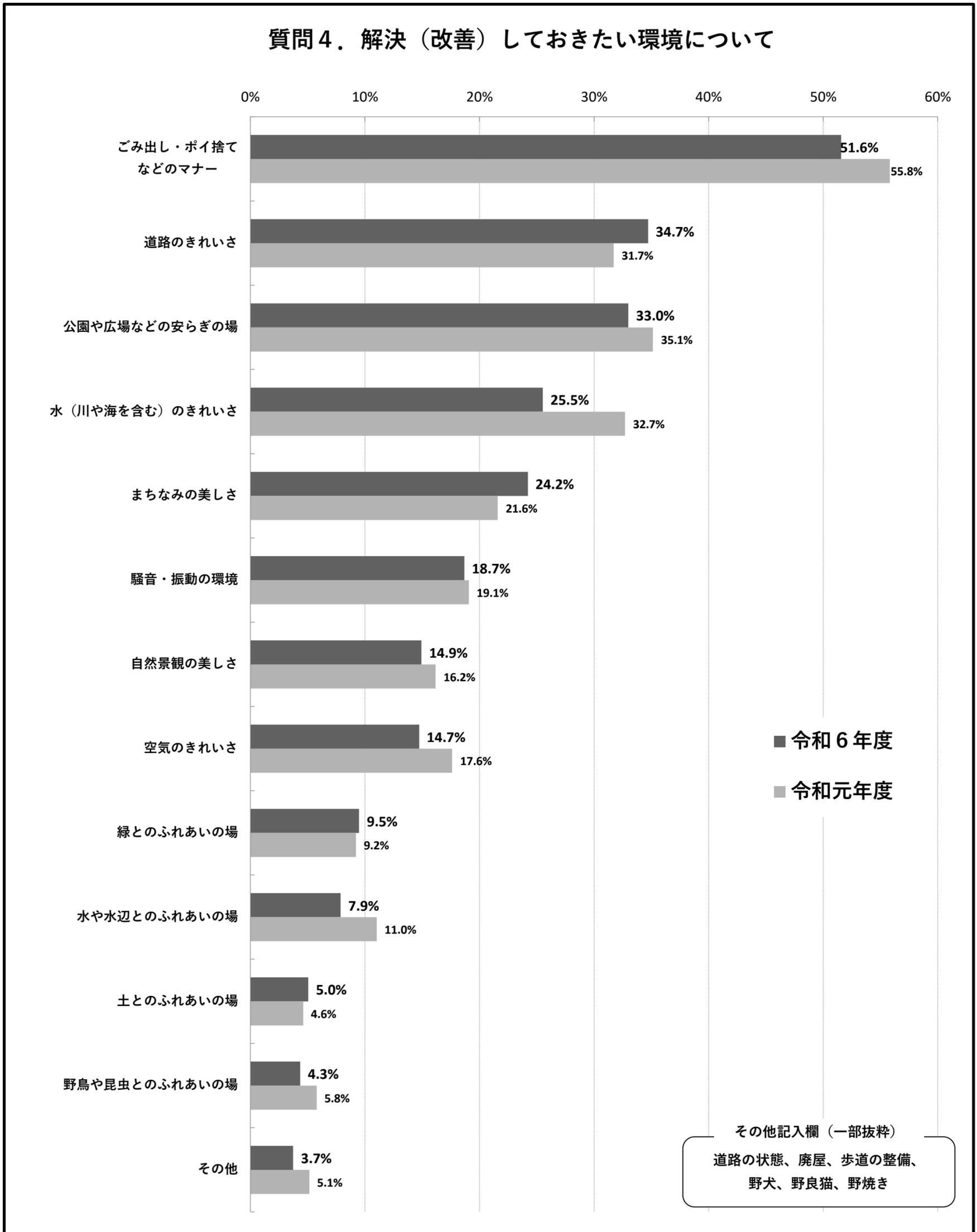
質問3. 将来の世代に残したい環境について(複数回答あり)(有効回答数:1,030人)

多少数値の増減はあるものの、令和元年度と同様の傾向となっており、特に「空気のきれいさ」について、将来の世代に残したいと考えていることが分かりました。



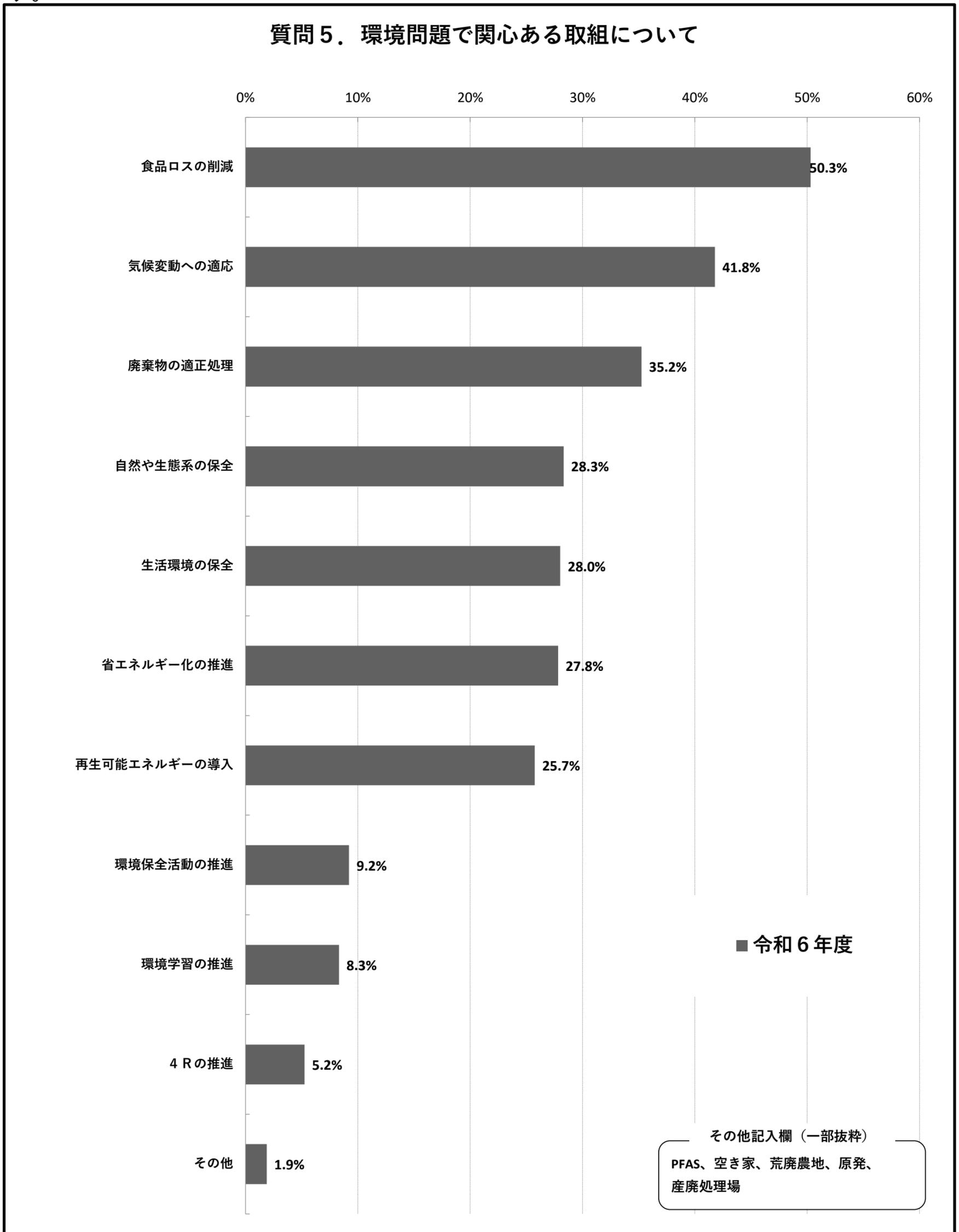
質問4. 解決(改善)しておきたい環境について(複数回答あり)(有効回答数:991人)

多少数値の増減はあるものの、令和元年度と同様の傾向でした。「ごみ出し・ポイ捨てなどのマナー」について、5割以上が改善したいと考えています。



質問5. 環境問題で関心ある取組について(有効回答数:1,010人) ※令和6年度新規項目

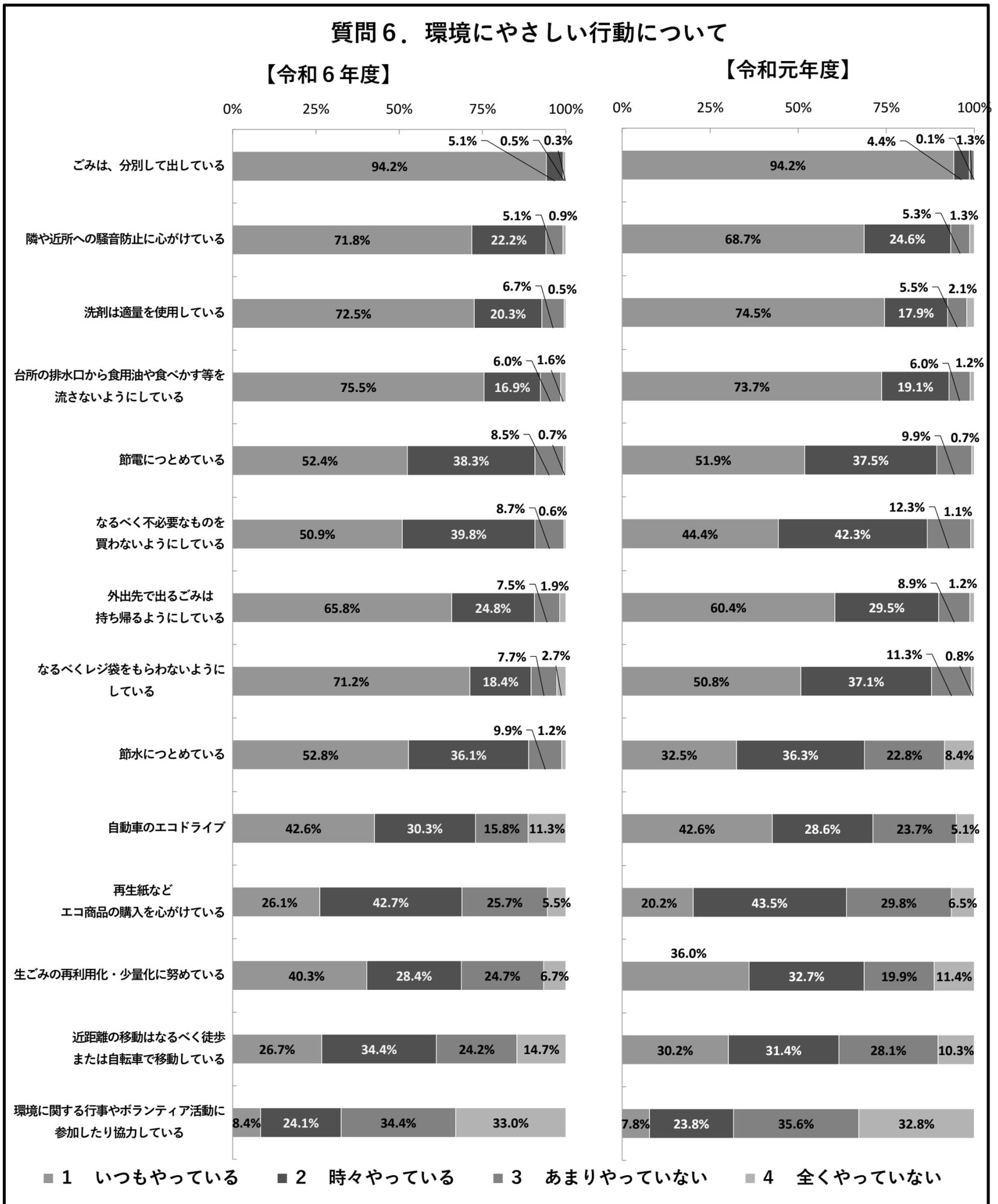
上位に食品ロスや、気候変動、廃棄物が入っていることから、ニュースや新聞等で頻繁に取り上げられる問題や近年の猛暑等の地球温暖化への危機感が、高い関心に自然と繋がったものと考えます。



【環境に対する取組について】

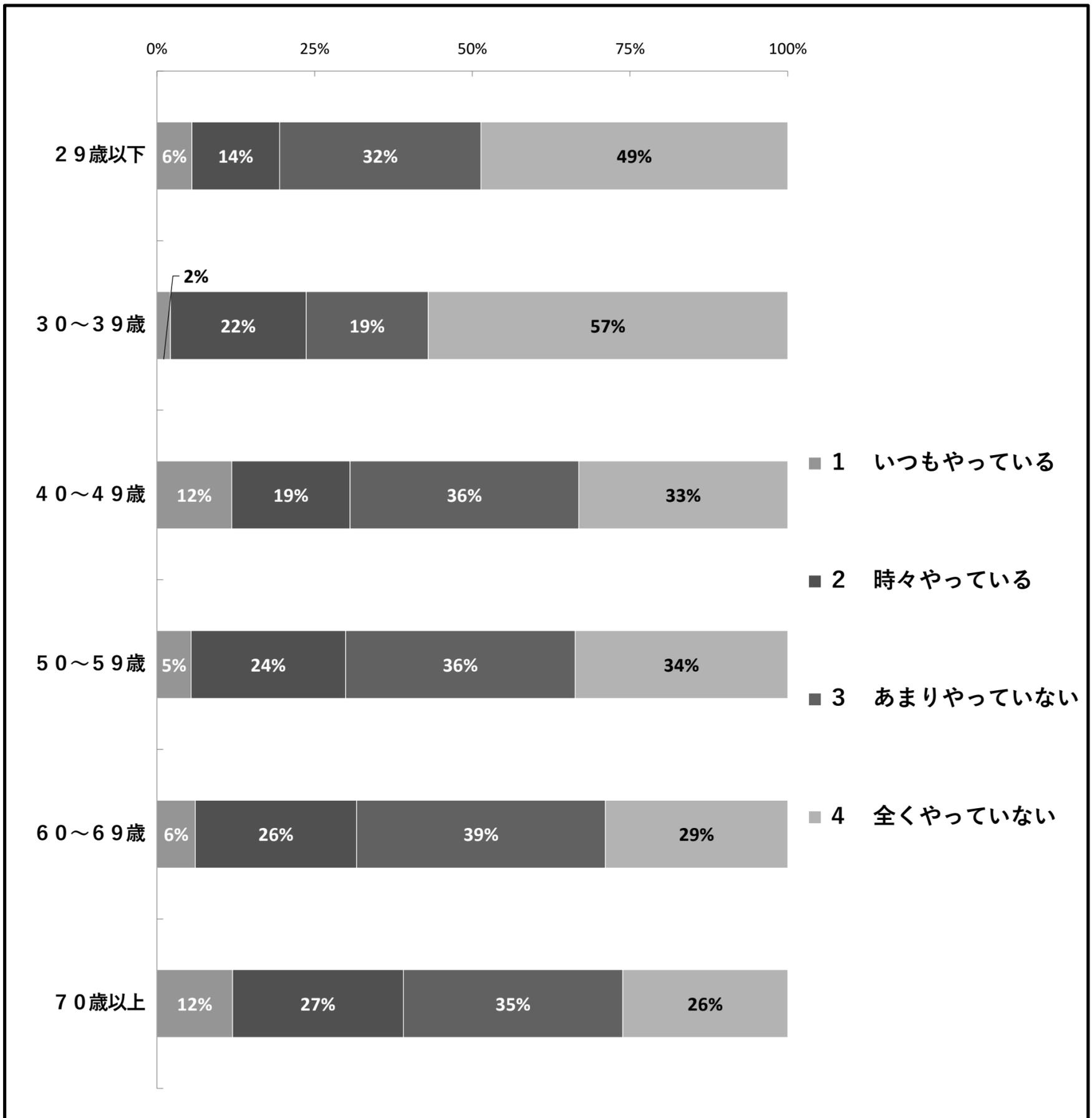
質問6. 環境にやさしい行動について(有効回答数は本調査結果の末尾に表示)

上位8項目までは「いつもやっている」、「時々やっている」を含めて90%の方が実践しています。身近な取組ほど実践しやすいことが見受けられます。



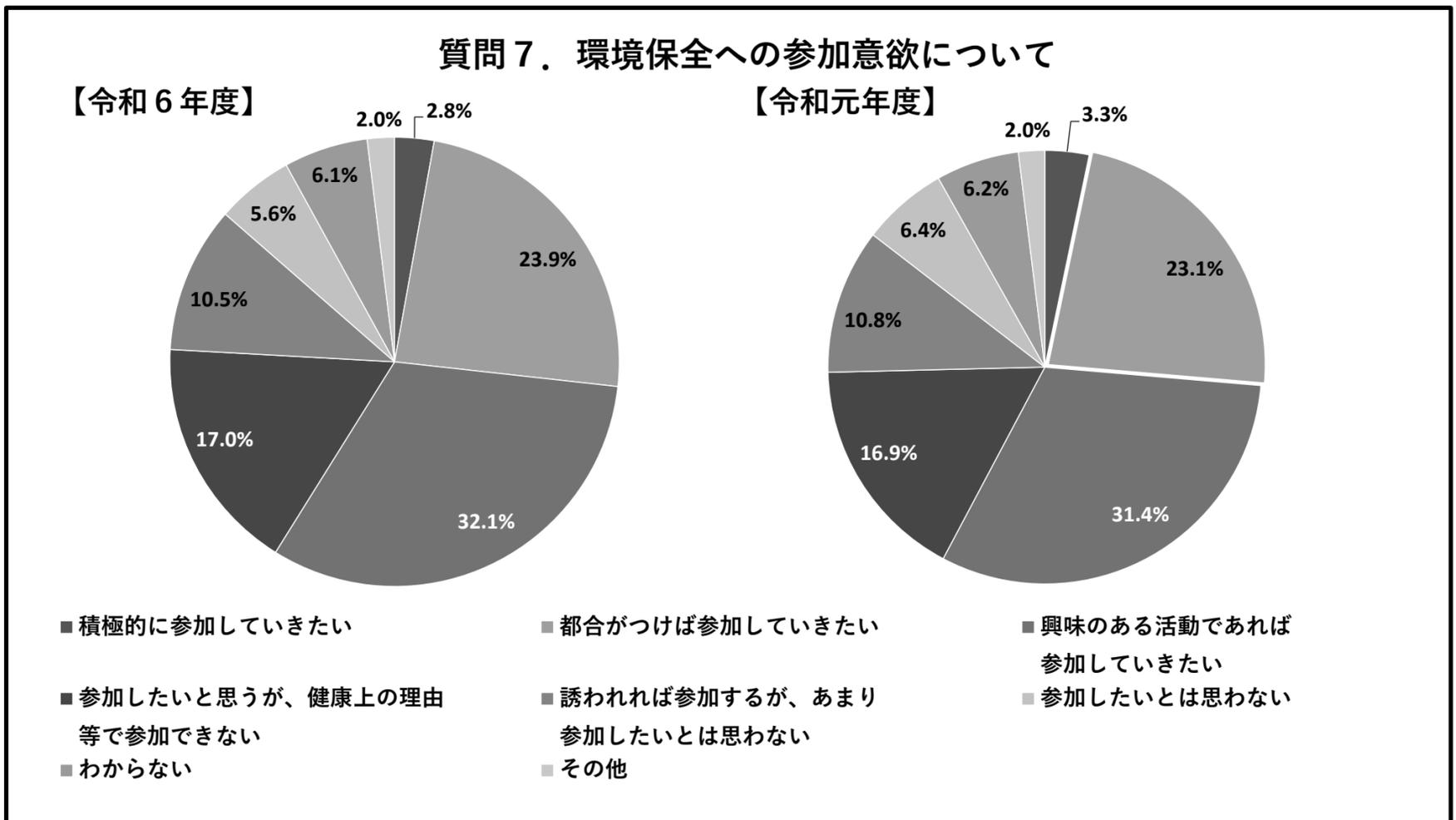
質問6のうち最も実施率が低かった「環境に関する活動」について、年齢ごとに実施率を分析すると、年齢が下がるほど参加率が低くなることがわかります。

質問6の項目「年齢別の環境に関する行事やボランティア活動に参加したり協力している」における年齢別の割合

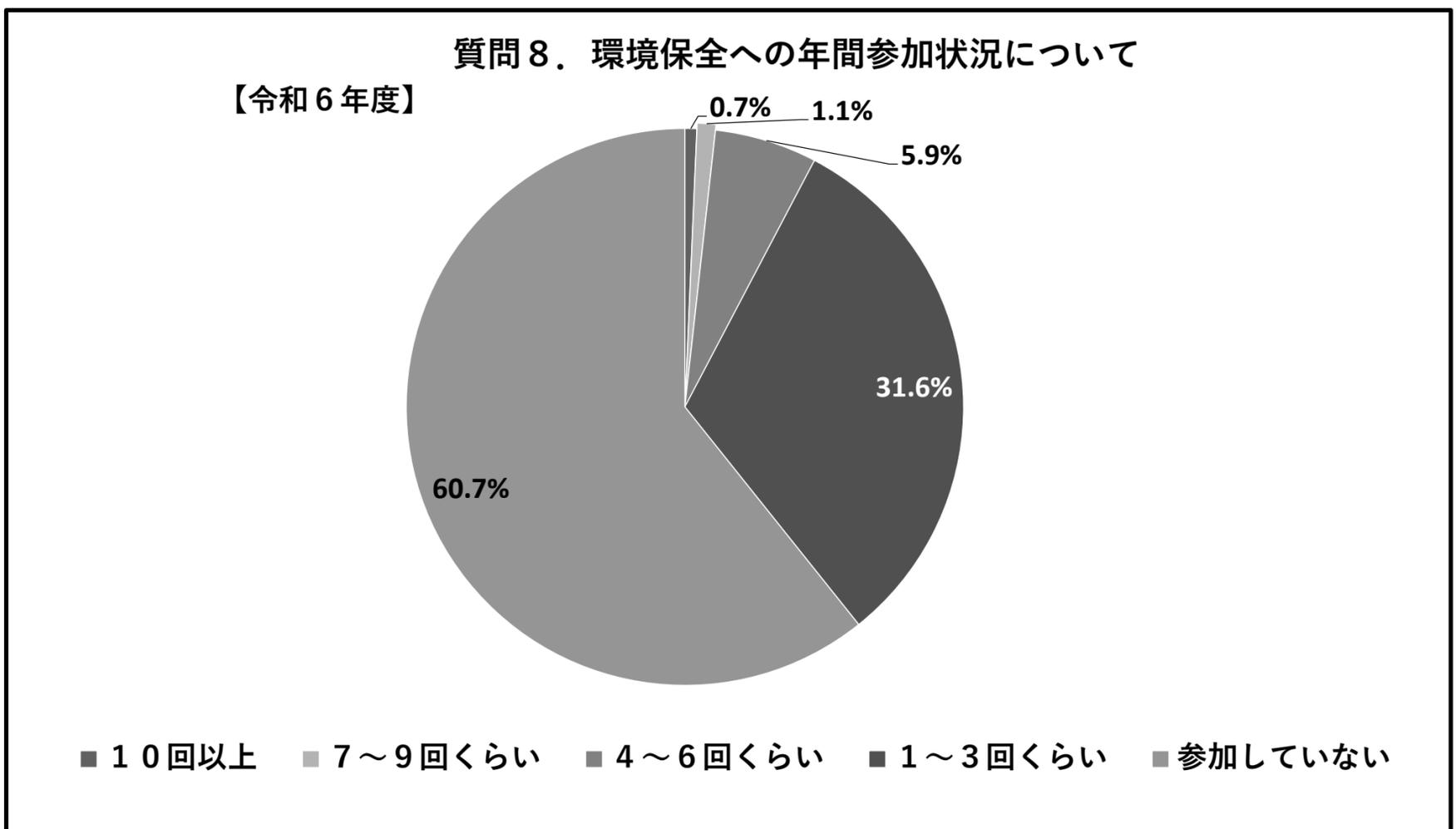


質問7. 環境保全への参加意欲について(有効回答数: 1, 024人)

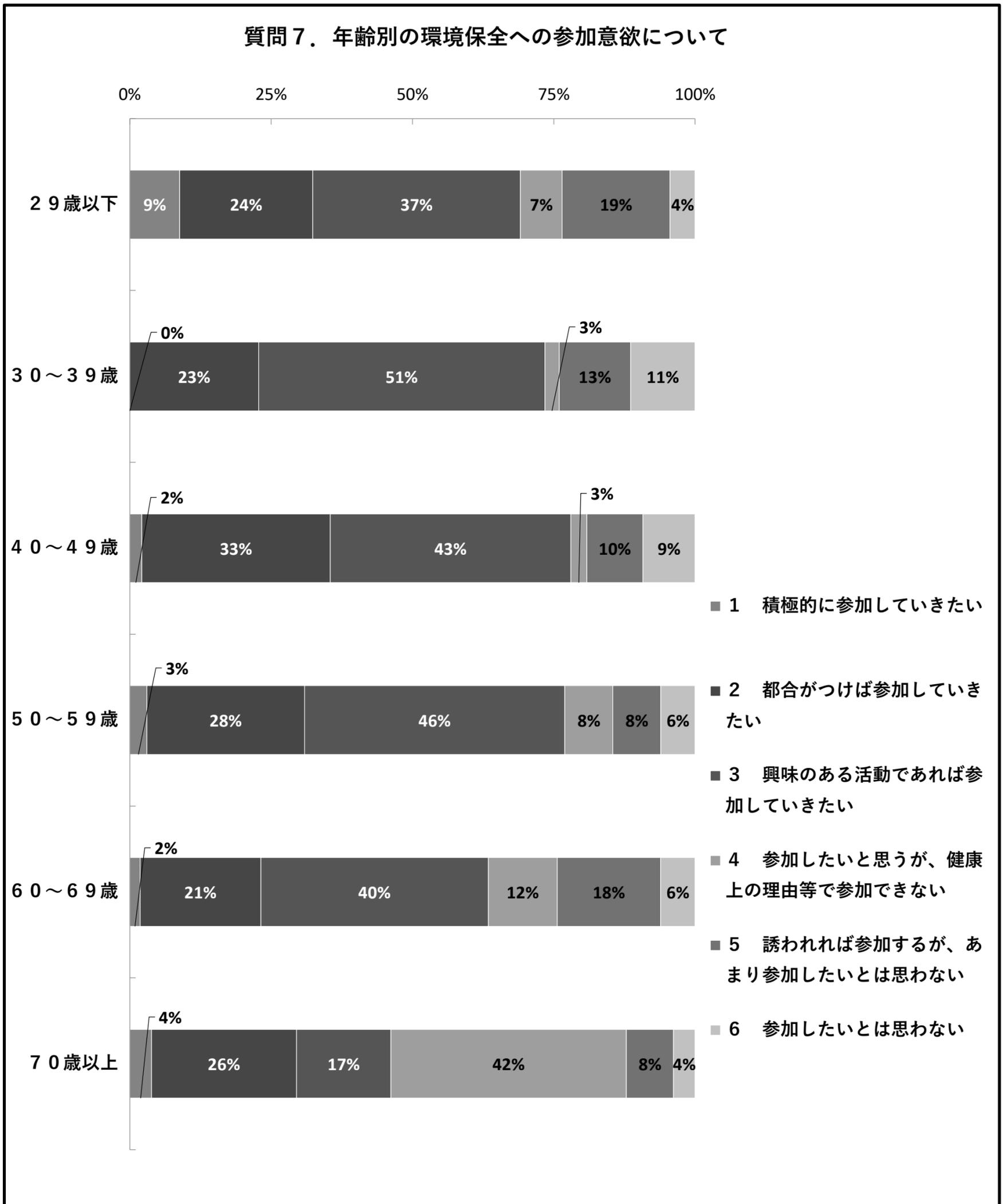
多少数値の増減はあるものの、令和元年度と同様の傾向となっており、5割以上が参加の意欲を持っています。



質問8. 環境保全への年間参加状況について(有効回答数: 1, 026人) ※令和6年度新規項目
市民の4割の方が、年に最低1回は参加していることがわかります。

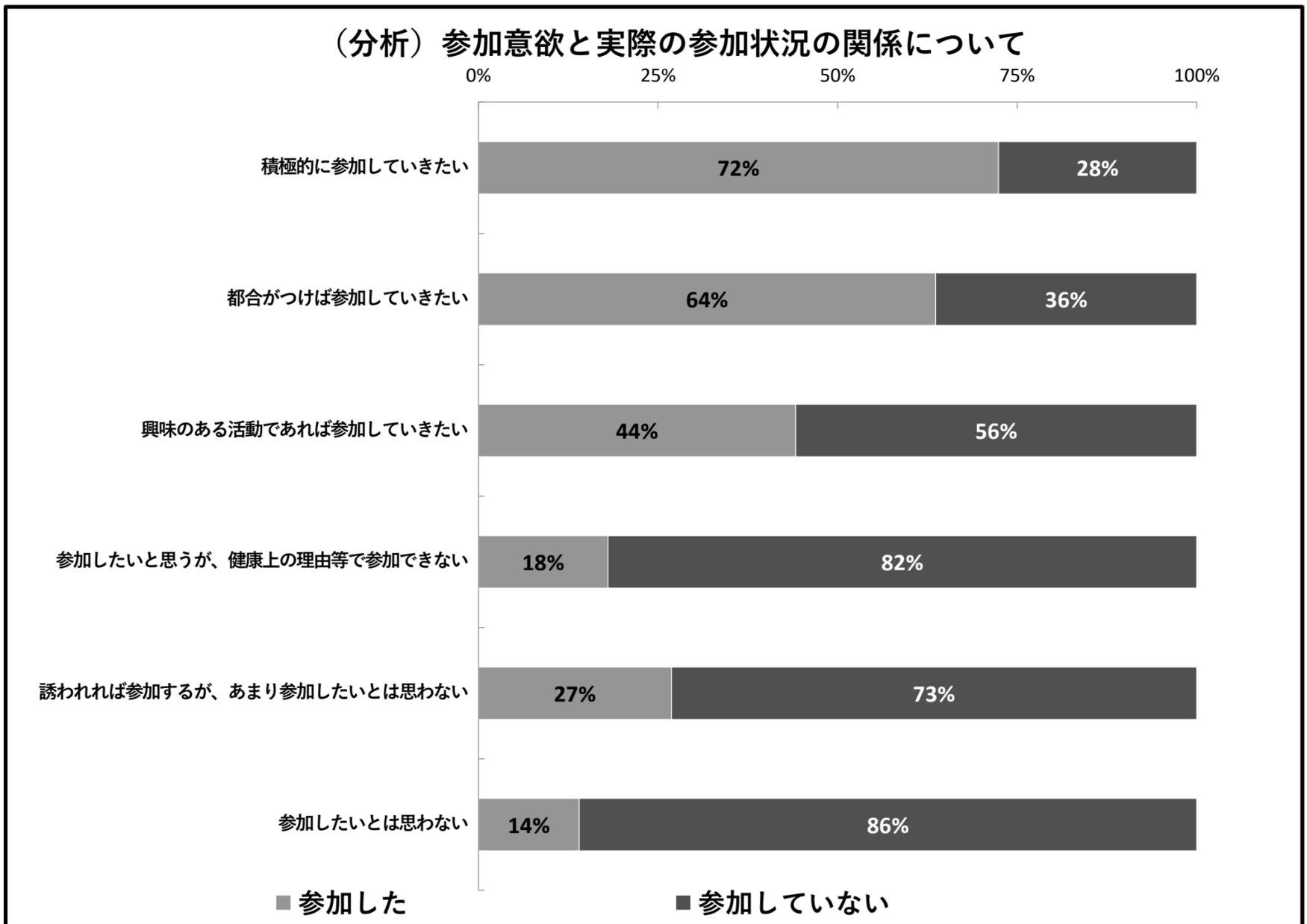


活動への参加意欲は、「興味があれば参加したい」までを含めると70歳未満で6割以上の方が参加の意欲を持っていることがわかります。



(分析)環境保全への参加意欲(質問7)と実際の参加状況(質問8)の関係について

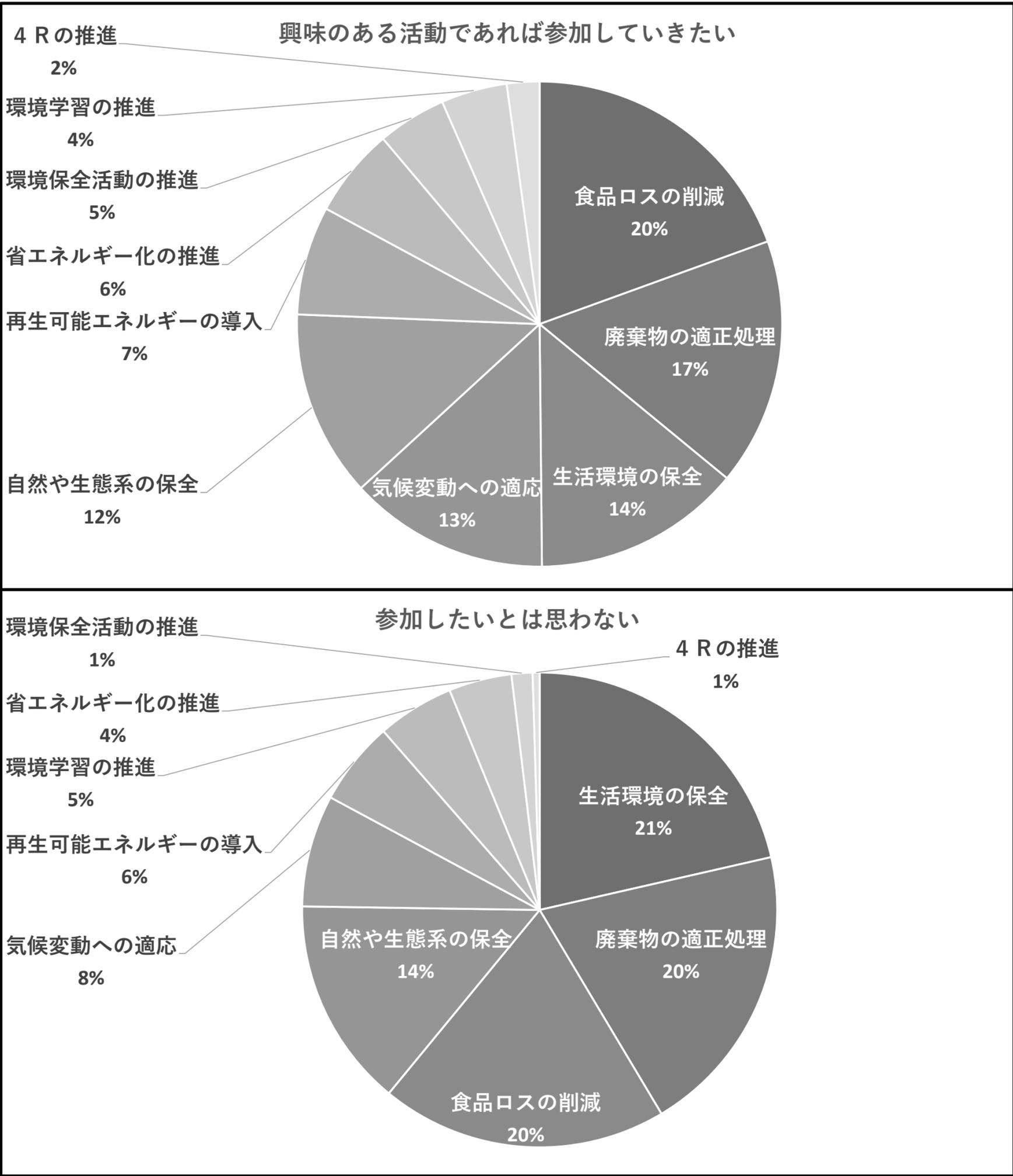
参加意欲と実際の参加率について分析すると、参加意欲が高いほど参加率も高いことがわかりました。例えば、「積極的に参加していきたい」と思っている人の72%が参加し、「参加したいとは思わない」と考えている人の86%は参加していません。また、健康上の理由などで参加できない人も一定数存在していますが、全体的に意欲と参加率の間には相関関係が見られます。



それぞれの層の特徴と考えられる施策の方向性例

参加意欲	参加 (%)	不参加 (%)	特徴・課題	施策の方向性
積極的に参加していきたい	72%	28%	参加の意思もあり、参加率も高い層。	積極的な参加者として、参加の感想などの発信を行う側に回ってもらう。
都合がつけば参加していきたい	64%	36%	時間的な制約や他の予定との兼ね合いで参加が難しい層。	身近で取り組める環境保全活動を発信する。
興味のある活動であれば参加していきたい	44%	56%	興味関心を引けば、参加につながる可能性がある層。	実際の活動内容や活動の意義を発信する。
参加したいと思うが、健康上の理由等で参加できない	18%	82%	健康や体力的な問題により、参加のハードルが高い層。	体に負担をかけずに環境に貢献できる取組を発信する。
誘われれば参加するが、あまり参加したいとは思わない	27%	73%	他者からの誘いには応じる可能性がある層。	意欲ある参加者に身近な人への声掛けを促す発信する。
参加したいとは思わない	14%	86%	環境保全活動への関心が薄い層。	環境問題の重要性について啓蒙活動を行う。

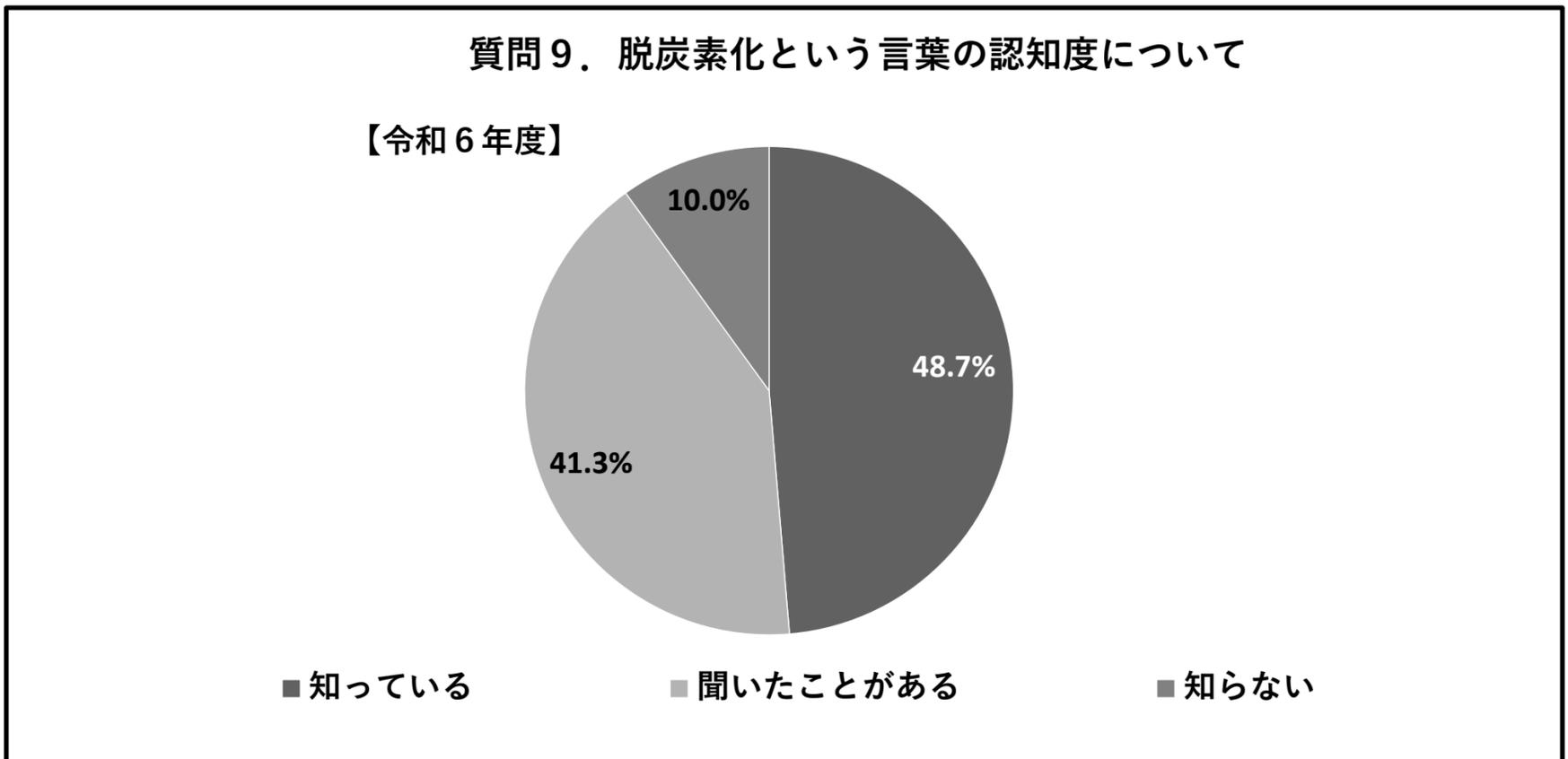
さらに、質問7で「興味のある活動であれば参加したい」「参加したいと思わない」と答えた方が、質問5で関心ある取組と答えたものを整理すると、特に食品ロスの削減、廃棄物の適正処理、生活環境の保全等、項目の中でも特に日々の生活で身近に感じられるものへの関心が高いことがわかりました。



【地球温暖化問題について】

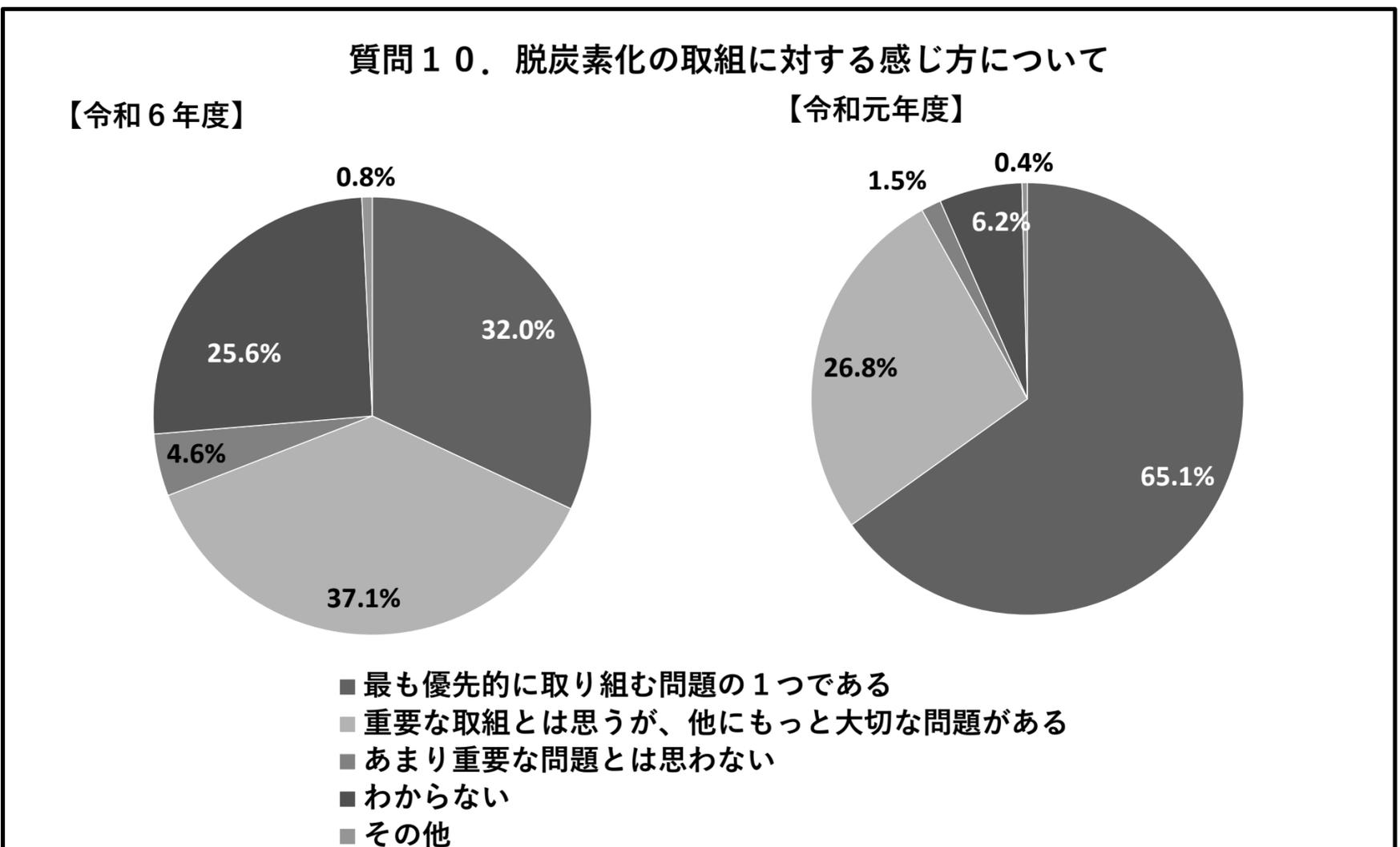
質問9. 脱炭素化という言葉の認知度について(有効回答数:1,052人)

9割の方が「脱炭素化」という言葉を認知していることがわかりました。



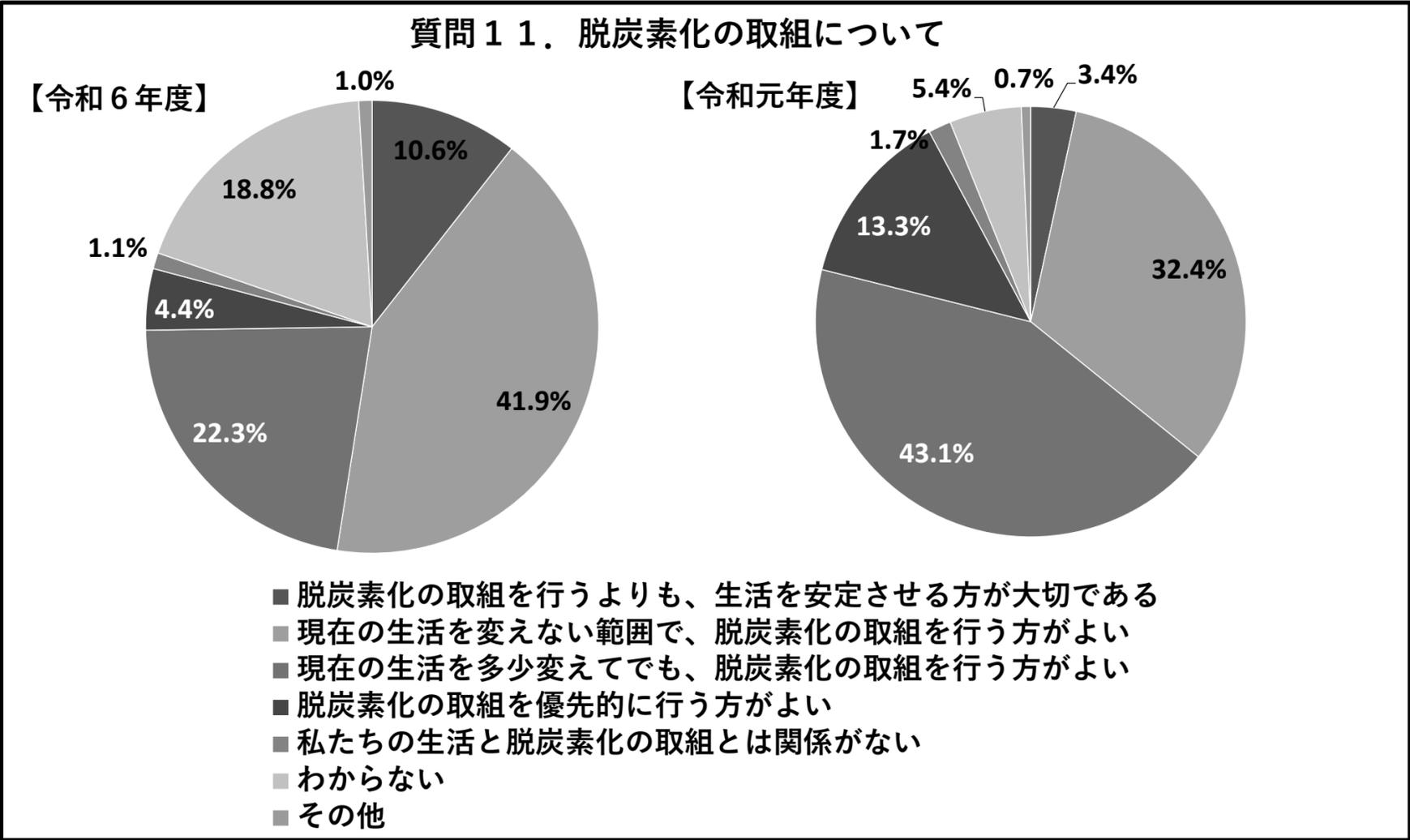
質問10. 脱炭素化の取組に対する感じ方について(有効回答数:1,045人)

令和元年度は「地球温暖化対策」としてアンケートしました。令和元年時点と比較して最も優先的に取り組む問題の1つの回答が33ポイント減り、わからないという回答が19ポイント増えました。この5年間にコロナ禍、経済状況の変化、世界情勢の不安定化などが生じ、脱炭素に対する捉え方が大きく変化したことがうかがえます。

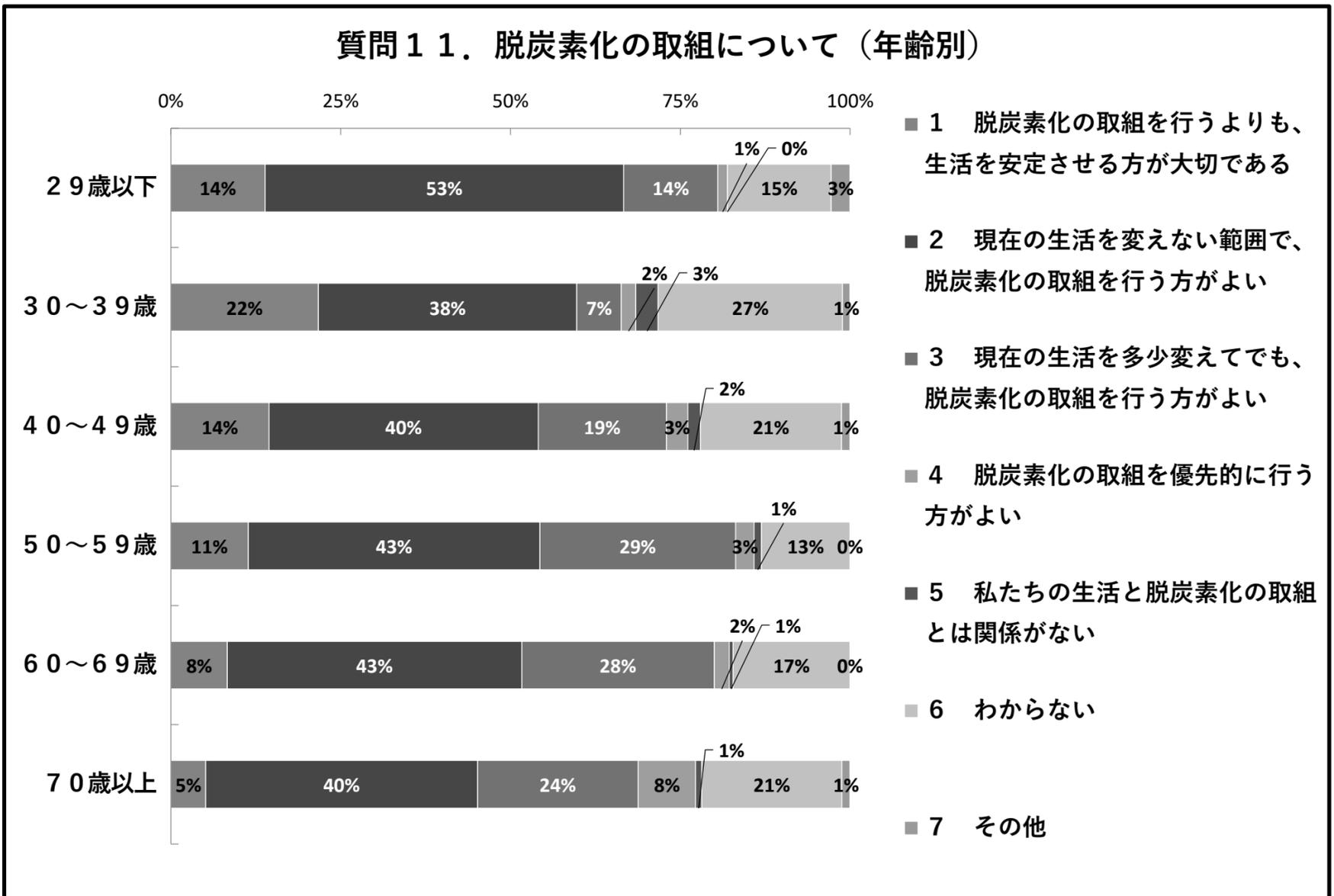
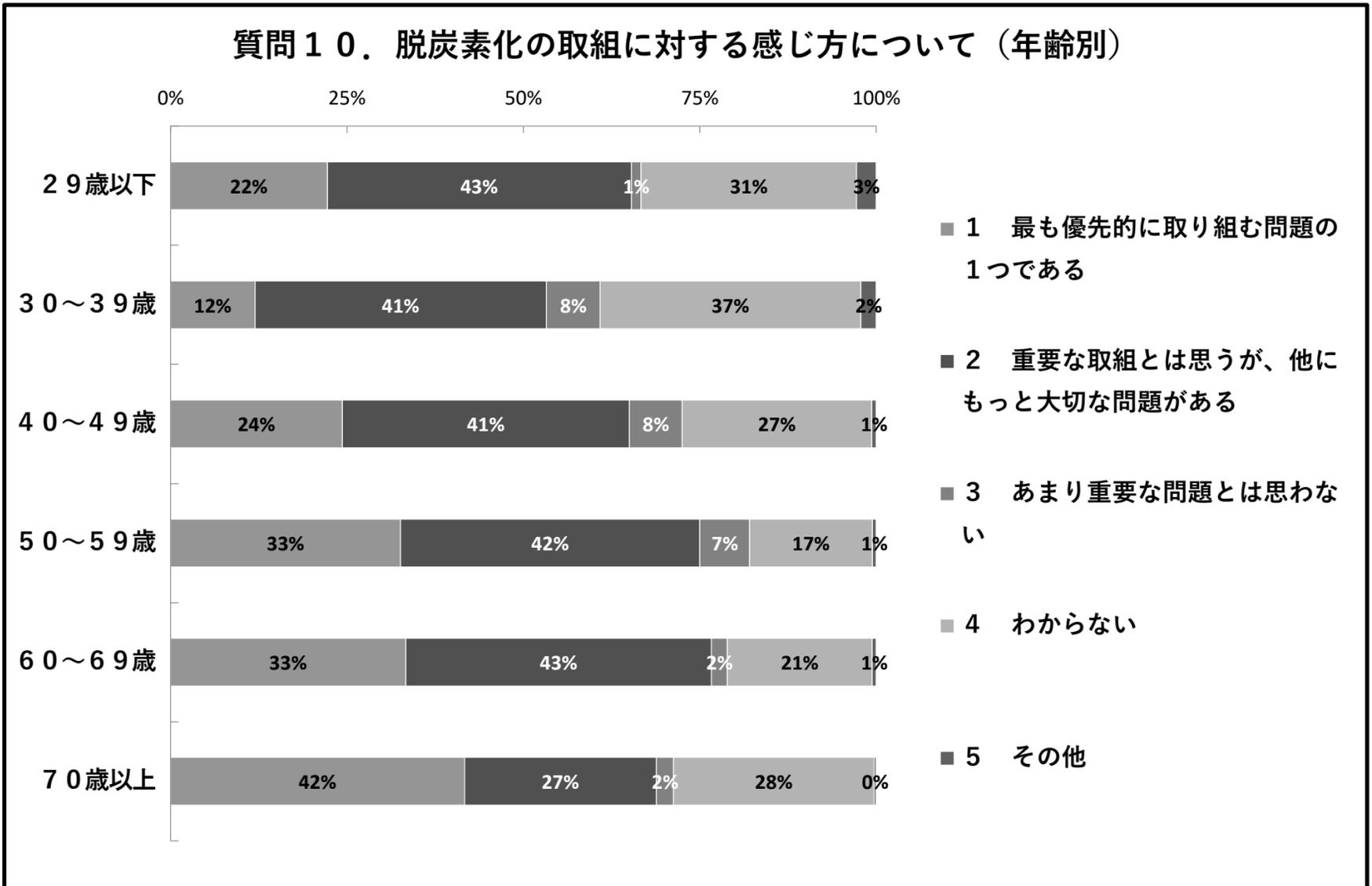


質問11. 脱炭素化の取組について(有効回答数: 1, 050人)

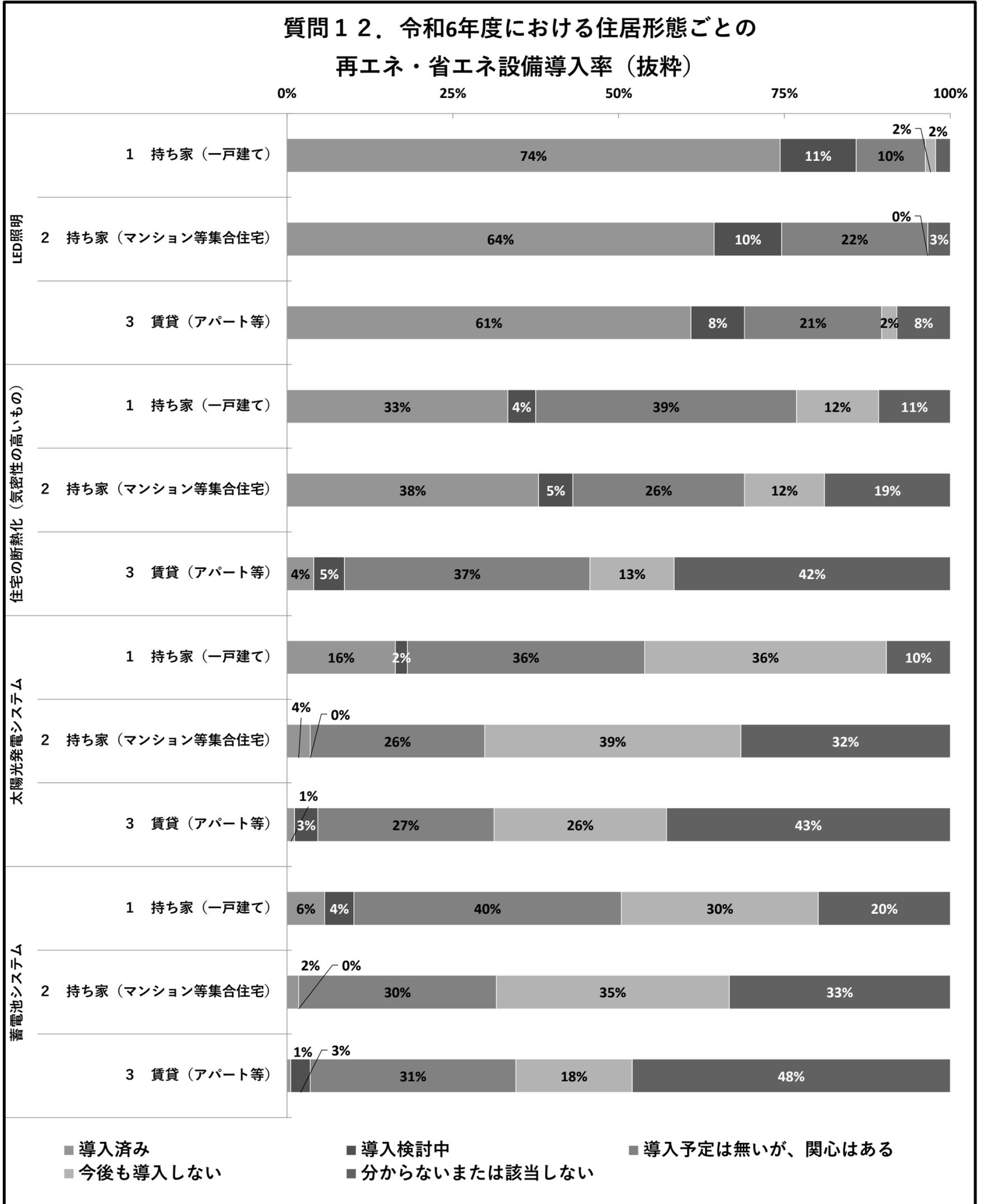
「脱炭素化よりも生活の安定の方が大切」と答えた方は令和元年度と比較して7ポイント増加しました。また、「生活を変えない範囲での脱炭素化」は10ポイント増加、「生活を変えてでも脱炭素化をするべき」は21ポイント減、「脱炭素化を優先すべき」は9ポイント減と変化しています。質問10と同様に、この5年間で大きく傾向が変わり、脱炭素よりも生活を優先するという考えの変化がうかがえます。



質問10、11について年齢別に回答を分析すると、若年層(特に30代)ほど脱炭素化以外に関心が向いていることがわかります。また、若年層で「わからない」を選ぶ割合が多く、環境問題の重要性についての啓蒙活動の検討が必要です。



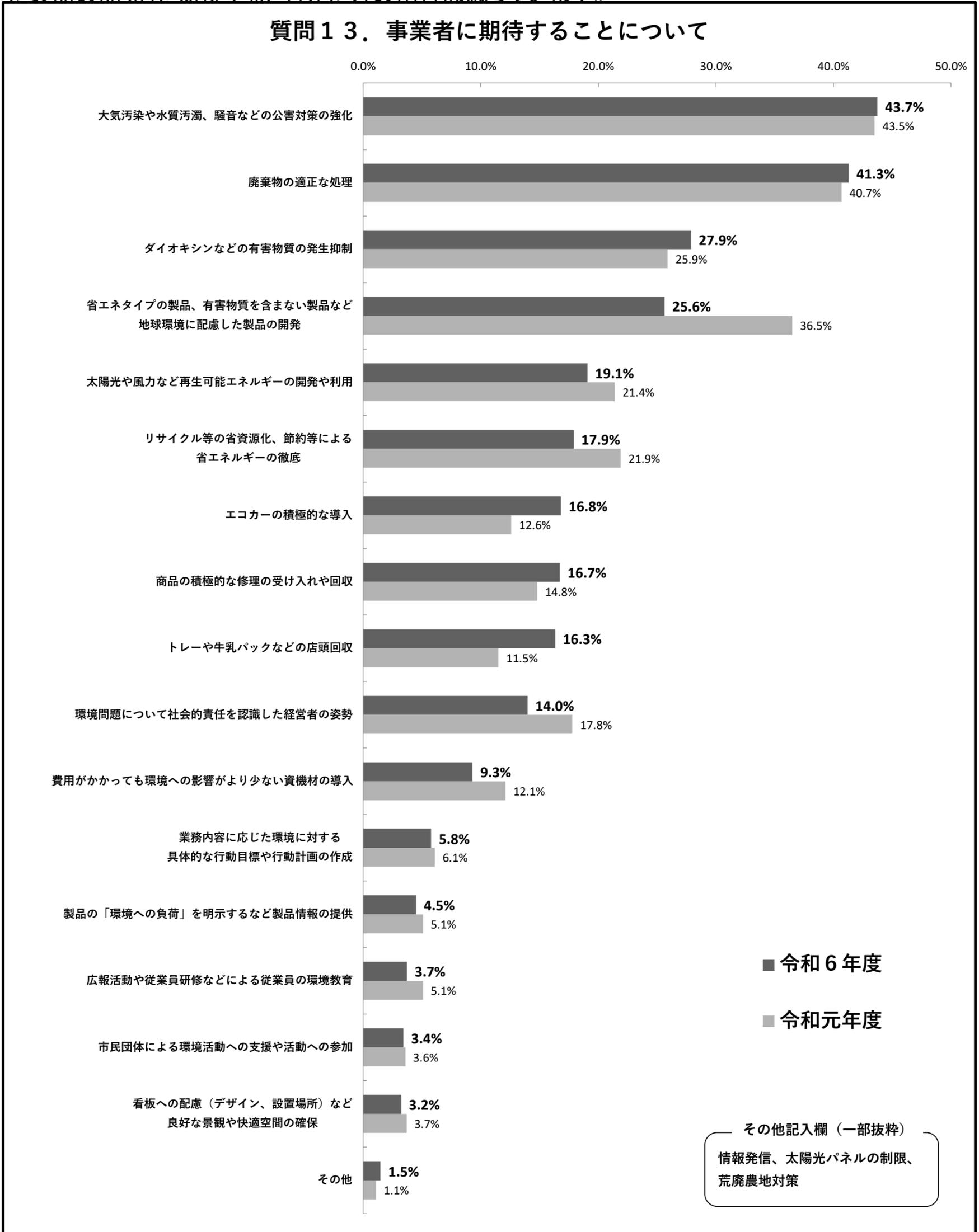
主だった再エネ・省エネ設備について、住居形態ごとに導入状況を整理しました。LED照明については住居形態によらず導入が進んでいることがわかります。断熱化導入については、持ち家が進んでいることがわかります。太陽光発電システム、蓄電池の導入はほぼ一戸建てで占められています。住宅向けの太陽光発電システムについては、鳥取県が進める鳥取スタイルPPAなどの事業を周知することが導入率の増加に対して有効な可能性があります。



【事業者や行政に期待することについて】

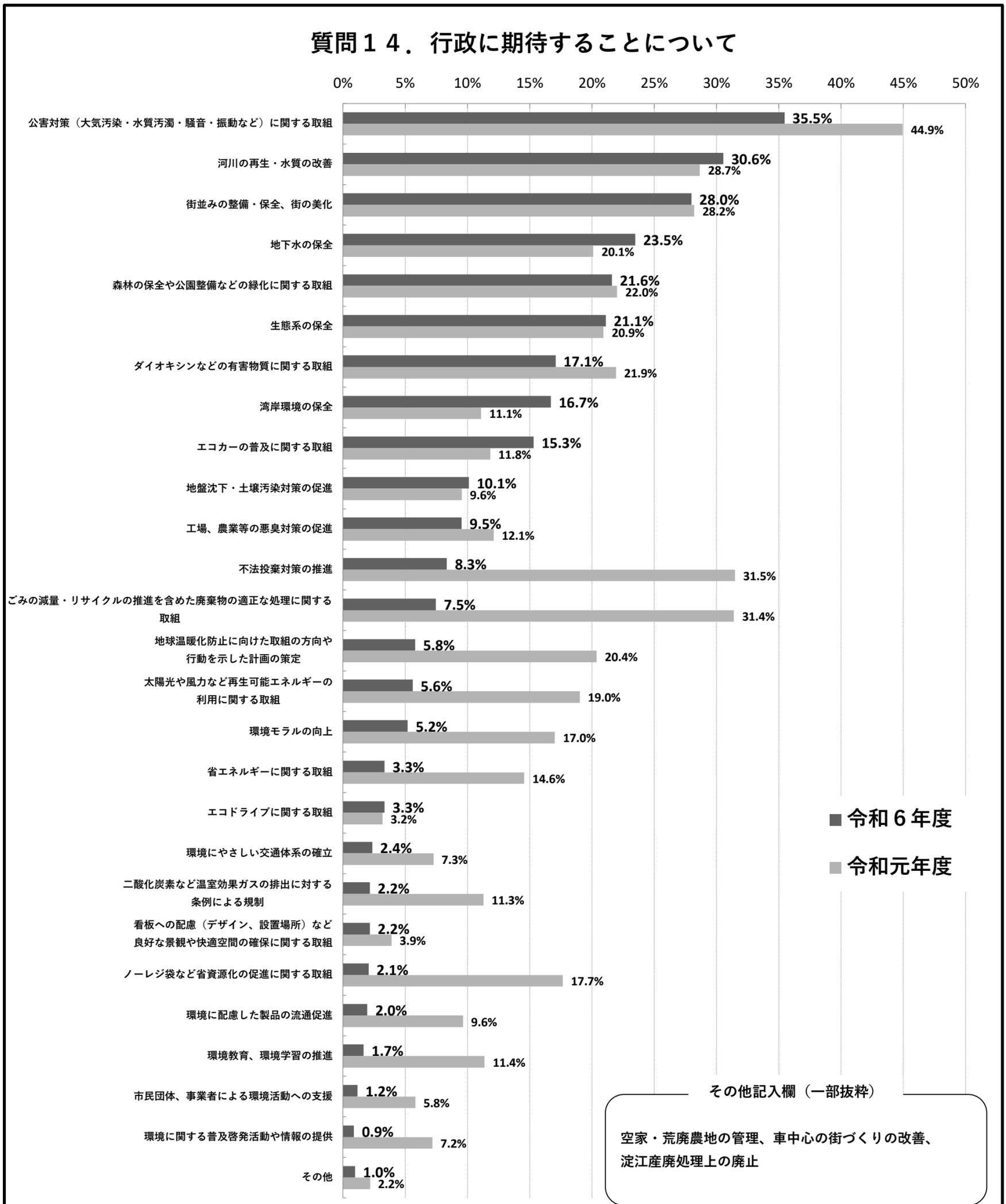
質問13. 事業者に期待することについて(有効回答数: 1, 022人)

事業者に対して公害対策や廃棄物の適正処理に関する取組を求める声が多く上がっています。一方で、前回アンケート時より「省エネタイプの製品、有害物質を含まない製品など地球環境に配慮した製品の開発」を期待すると答えた方の割合は減っています。



質問14. 行政に期待することについて(有効回答数:1,018人)

令和6年度には、令和元年度に比べて環境保護全般に期待する回答が多いことがわかりました。自然環境保全への期待が高まり、包括的なアプローチを求めていることがうかがえます。



【質問2, 6, 12の有効回答数】

質問2

質問項目	有効回答数
空気のきれいさ	1,072
水(川や海を含む)のきれいさ	1,068
騒音・振動のようす	1,067
緑とのふれあいの場	1,065
野鳥や昆虫とのふれあいの場	1,060
水とのふれあいの場	1,057
土とのふれあいの場	1,056
公園や広場などの安らぎの場	1,059
まちなみの美しさ	1,069
自然景観の美しさ	1,064
道路のきれいさ	1,070
ごみ出し・ポイ捨てなどのマナー	1,074

質問6

質問項目	有効回答数
ごみは、分別して出している	1,067
台所の排水口から食用油や食べかす等を流さないようにしている	1,060
洗剤は適量を使用している	1,056
隣や近所への騒音防止に心がけている	1,052
外出先で出るごみは持ち帰るようにしている	1,063
節電につとめている	1,070
節水につとめている	1,070
なるべく不必要なものを買わないようにしている	1,068
生ごみの再利用化・少量化に努めている	1,058
なるべくレジ袋をもらわないようにしている	1,066
近距離の移動は、なるべく徒歩または自転車で移動している	1,051
再生紙などエコ商品の購入を心がけている	1,052
環境に関する行事やボランティア活動に参加したり協力している	1,056
自動車のエコドライブ	987

質問12

質問項目	有効回答数
LED照明	1,003
住宅の断熱化(気密性の高いもの)	988
エコカー(ハイブリット車、電気自動車等)□	989
太陽光発電システム	992
太陽熱利用システム□(太陽熱温水器)□	983
家庭用燃料電池システム□(エネファーム)□	972
蓄電池システム	976
家庭用風力発電	985